

住民が安心して住み続けられるための地域医療を！

# 地域医療を守る共同行動 みやぎ連絡会 News

2023.3.17.FRI No.128

発行／地域医療を守る共同行動みやぎ連絡会事務局  
〒983-0047 仙台市宮城野区銀杏町39-18（民医労内）  
TEL 022-782-0633／FAX 022-782-0634

## 市内病院を含む4病院再編構想に関する件

宮城県が主導する4病院再編構想については、令和4年11月に「仙台医療圏の4病院の統合・合築に係る宮城県の考え方」が示されたものの、市民や県民、患者、医療従事者、本市を含む関係者に対する十分な情報開示や説明が依然としてなされておらず、不安や懸念の声が上がっているところである。

このような中、令和5年2月20日に、宮城県と、再編対象とされている本市内に存する2病院の設置者である、日本赤十字社及び独立行政法人労働者健康安全機構との間で、それぞれ「協議確認書」が取り交わされた旨、公表された。

これらの「協議確認書」では、これまでの協議を通して共有できた認識のほか、新病院の位置付けや運営主体など、今後詳細を検討する必要がある協議事項が確認され、宮城県が目指すとしている政策医療の課題解決を図るため、令和5年度中に合意をすることを目指し協議を進める旨の方針が示された。しかし、本市議会は、この4病院再編構想の実現が政策医療の課題解決に繋がるものとなるのか、いまだ明らかにされていないものと認識している。

このため、本市議会は、宮城県において今後の協議を進めるにあたり、本市市民や関係者の理解を得ながら進めることが不可欠であることを認識の上、十分な情報開示や説明、関係者との意見交換を行うなどしながら、慎重に検討するよう求める。

また、市当局においては、市民の命と健康を守るため、将来にわたって必要な医療提供体制を確保できるよう、本市医療政策の充実を図るとともに、真摯に宮城県と議論を重ねるよう更に努めることを求める。

以上、決議する。

令和5年3月14日

仙台市議会

# 総務部長 小野寺氏有力

## 保健福祉部長は志賀慎氏

県人事

県は13日、4月1日に発令する定期人事異動で、幹部職員人事の最終調整に入った。本庁部長級では、総務省に復帰する志賀真幸総務部長(44)の後任に、小野寺邦貢総務部副部長(56)の昇格が固まった。副知事に就任する伊藤哲也保健福祉部長(60)の後任には志賀慎治大河原地方振興事務所長

(56)、教育長に就く佐藤靖彦環境生活部長(59)の後任には佐々木均北部地方振興事務所長(58)をそれぞれ起用する方向だ。復興・危機管理部長に千葉章企画部長(59)、企画部長には武者光明気仙沼地方振興事務所長(58)の登用が有力視される。経済商工観光部長には梶村和秀東京事

務所長(56)、農政部長には橋本和博農政部副部長(58)、会計管理者兼出納局長には大庭豪樹経済商工観光部副部長(58)を充てる見通し。

## 4病院再編

# 精神保健福祉審議会

# 県、年度内は開かず

県議会2月定例会は13

日、予算特別委員会を続けた。環境福祉分科会では県が主導する仙台医療圏4病院の再編構想が取り上げられ、県は県立精神医療センター（名取市）の富谷市移転案を議論する次回の県精神保健福祉審議会について、年度内に開かない考え

を示した。

前回の審議会は2月8日であり、精神科医療・福祉関係者からセンター移転案への反対意見が続出した。県が構想を公表した2021年9月以来、初開催だったため、会長の富田博秋東北大大学院教授は「重要な問題の割に議論の時間が短

い」として年度内の再開催を提案していた。

伊藤哲也保健福祉部長は「現時点では何か特定の委員会を設けるのではなく、

さまざまな人の意見を随時聞き、われわれの考えも整理した上で審議会に説明したい」と語り、「今月中の開催は難しい」と答弁した。

センターの患者や家族に出向いて意見を聞いていないこともあり、複数の県議が「当事者不在」などと県の姿勢を批判した。伊藤部

長は「地域医療の持続的な発展、政策医療の提供の観点からまず再編の枠組みを示した。県が一方的に進めている印象を持たれたことは反省している」と述べた。

## 仙台赤十字病院 移転反対へ集会

八木山地区の住民有志

仙台医療圏の4病院を再編する県の構想を巡り、仙台市太白区八木山地区の住民有志が12日、地元の仙台

赤十字病院移転に反対するアピール集会を同院に隣接する金剛沢緑地で開いた。



仙台赤十字病院の移転反対を訴える住民ら

住民ら約250人が集まり、「日赤をなくさないで」などと声を上げた。

八木山、八木山南の両連合町内会が主催した。約6年前に東京都から八木山地区に引っ越してきた主婦佐藤裕子さん(48)、長男龍君(8)親子は、手書きのポスターを持参した。「持病があり、日赤病院のある八木山に住むことを決めた。息子も小児科を利用しており、何とかして移転を止めた」と力を込めた。

八木山連合町内会の広瀬博会長(82)は「病院をなくさないでほしい住民がこれだけ集まった。知事は結論を新年度に引き延ばしたが、そうではなく早く撤回してほしい」と訴えた。

県の構想は、仙台赤十字病院と県立がんセンター(名取市)を統合して名取市に新病院を建設する。県は日本赤十字社と今後の協議に関する確認書を2月20日付で取り交わした。新年度中の合意を目指す。

# 4病院再編 仙台市議会「情報開示を」 県への要望再び決議

仙台市議会2月定例会は14日、仙台医療圏4病院の再編構想に関して、県が市など関係者に十分な情報開示や説明を行い、慎重に検討するよう求める決議案を可決した。

決議は、2月に県が関係機関と交わした協議確認書で、政策医療の課題解決を

図るため2023年度中に目指すとする合意について「課題解決につながるか明らかになっていない」と指摘。協議進展には関係者の理解を得ることが「不可欠だ」とけん制した。

市に対しても、必要な医療提供体制を続けるため県と真摯に議論を重ねるよう

さらなる努力を求めた。本会議での採決前にせんだい自民党の2議員が「県との対立構造は市民にとつて何一つ良いことはない」などの理由で退席。他の議員は賛成した。

市議会は21年9月定例会で、同様の趣旨の決議を全会一致で可決している。

## 仙台市「総額6000億円」新年度予算案可決 子育て支援拡充・4病院再編“慎重な検討を”

<https://news.yahoo.co.jp/articles/57ff59d5dee01f33de38c6932ce52565b29a99b8>

2023年3月14日 仙台放送



仙台市の2月定例会市議会は子育て支援策などに重点をおいた総額で6000億円あまりの新年度の当初予算案が可決・成立し閉会しました。

3月14日、最終日を迎えた仙台市の2月定例会市議会は、一般会計の総額で6147億円の新年度の当初予算案の採決が行われ、全会一致で可決、成立しました。新年度の予算は、今年度の当初予算を218億円上回り過去最大となりました。

市では、4月から子供の医療費助成で

保護者の所得制限を撤廃することにしていて、予算ではこれに伴う費用として、3億9000万円あまりが盛り込まれました。

また、県が主導する仙台医療圏の4病院の再編をめぐり、再編の実現で政策医療の課題解決につながるか明らかではないとして、県へ十分な情報開示と慎重な検討を求める決議案も可決されました。

## デジタル推進や子育て・若者支援など 新年度当初予算案ほかを可決し閉会 仙台市議会

<https://www.khb-tv.co.jp/news/14861104>

2023年3月14日 khb東日本放送



仙台市議会の2月定例会は、6147億円の新年度一般会計当初予算など提出された77の議案全てを可決し閉会しました。

2月定例会は14日に最終日を迎え2022年度に比べ218億円の増額となる6147億円の新年度の一般会計当初予算案など、77の議案の採決を行い全て原案通りに可決しました。

一般会計当初予算の主なものはデジタル化の推進に48億円、子育て支援や若者支援に253億円、青葉山エリアの整備など街づくりに95億円などとなっています。

また、仙台医療圏の4病院再編構想について、県に対し慎重に検討することなどを求める決議案が議員から提出され可決しました。

この他、太陽光発電事業の適正な設置、維持管理などを定める条例も可決され、2024年1月以降の施行を目指し検討を重ねていくことになりました。